

光葉同窓会メールマガジン



<2024年7月号>

205号 2024.7.01 配信

陽射しが強くなり、暑さが本格的な7月になりました。この季節は、富士山などの山開き、七夕や海の日、夏祭りなどの伝統的な行事や、梅雨明けになり、暑気払いなどイベントが数多くあります。この時期になると、45年ほど前に訪れた浅草寺のほおずき市の情景を思い出します。

光葉同窓会では学生を支援する光葉緑奨学金制度があります。北海道・四国・九州・沖縄出身の2年生から4年生で、勉学と人格形成に励んでいると認められた者に年額50,000円の奨学金を給付しています。今年度は7月12日に授与式を行い、20名に授与します。

盛夏に向け、心のバランスと体調を整えて元気に過ごしましょう。（常任委員 蜂谷由美子）

◇ワーキングネットワークからのお知らせ ーワーキングイベント2024ー

☆講演会『東日本大震災できづいた人との絆』 ・日時 2024年7月27日(土)

- ・ 講演者：元航空自衛隊 松島航空基地司令 時藤和夫氏
- ・ 講演会：昭和女子大学 オーロラホール 14：00～15：00 参加費無料(zoom参加もできます)
- ・ 懇親会：懇親会会場は参加者に連絡します 15：00～16：00 参加費 3,000円
- ・ 申込先

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScgoByRXV9OAF5-b58kDjPkci1-YLU_EFB2tLdFEqCTGP2FPg/viewform?usp=sf_link

- ・ 申込締切日 7月15日(月・祝)



◇2024年度幹事会を開催しました

6月15日(土)、本学学園本部館大会議室に、坂東眞理子総長・同窓会特別顧問と金尾朗学長・同窓会顧問に出席いただき、新幹事5名を含む100名が集いました。

同窓会活動の報告、新幹事の紹介後は、クラス会などを開催するためのシュミレーションゲーム



に取り組み、グループで話し合いました。本部役員から説明や提案をし、幹事の役割などを再確認してもらいました。お楽しみ抽選会で盛り上がるなか、閉会しました。

※出席された幹事に集合写真をプレゼントします。件名に幹事会集合写真希望、本文に氏名・卒年・学科名を記入し、dousoukai@swu.ac.jpにお申し込みください。写真を添付して返信します。

◇小林美佐子先生を偲ぶ会が行われました

6月27日(木)、本学学園本部館大会議室で、大学・附属高等学校光葉会との共催で行われました。中会議室では先生の在りし日の写真が展示され、先生を偲び思い出を語り合いました。卒業生と退職者を含む教職員など280の方が献花に訪れました。

◇支部会開催

・7月7日(日) 関西合同支部会(大阪府・奈良県・滋賀県・兵庫県・和歌山県) / 香川県支部

広げよう光の葉

田中 多喜子 さん

1964年 生活科学科卒業

「60年の歩み」

昭和女子大学短大食物科を卒業して生活科学科に編入した3年生で、杉田研究室に入りました。授業の後、先輩が卒論でコンドロイチン硫酸とタンパク質の関係などの実験をしていました。その実験室での器具や材料、火の取り扱い方のお手伝いなどをしながら、人生のさまざまなことを学ばせていただきました。卒業後は、武蔵工業大学(現在の東京都市大学)の原子力研究所に就職し、研究室や日本女子大卒業の先輩方と人の髪の毛のタンパク質の研究に加わりました。教えていただいた実験室での心構えや進め方が役に立ち、大変助かった記憶があります。

結婚を機に千葉に移り住みました。その頃、東京のごみの埋立地としての夢の島や環境問題が社会で話題になっていました。少なからず食を学んだ以上、まずは自分の子供たちが口にする食べ物はできるだけ手作りにしようと本や雑誌をはじめとし、パンやお菓子、お料理をいろいろな所に習いにきました。それが私の人生の先々に繋がります。

1981年、恩師の加藤澄江先生から、「先輩が千葉県支部会を立ち上げたので、そのお手伝いをしてください。」と連絡がありました。千葉県支部との関わりの始まりです。6月、本部から4人の方をお迎えして、多田貞子支部長と卒業生70数名で第一回目の支部会を発足。今年の41回目まで毎年関わってきました。クラス幹事、86年から同窓会委員、98年から9年間は本部の監事も務めさせていただきました。また、秋桜際のパザーで、96年から7年間、手作りのお菓子を出店し、皆さんが喜んでくださることが励みでした。2006年からは千葉県支部会員として参加し、支部の人たちと一緒にたくさんのお菓子を作り出店してきました。さらに14年から5年間、同窓会生涯学習活動の一環として、お菓子教室にも携わり、さまざまな体験や同窓生と交流をしてきました。



手作りを続けている中で、1981年9月、ある企業のパンのコンクールで銀賞をいただいたことがきっかけで本格的に勉強し直し、お菓子とパン作りの教室や器具と材料も販売する『クルトの店』を開店しました。90年から生徒さん達と、たくさんの方々にご覧いただき食べていただくお菓子とパンの展覧会を毎年開催しました。その頃、産経新聞社のフリーペーパーだった、千葉サンケイリビングの所長をしていた石井様が昭和女子大学の出身でした。女性でしかも主婦がお店を始めるのはまだ珍しく何度か新聞に取り上げていただくこともありました。お菓子教室の人たちとスイス、フランス、オーストリア、イギリス、イタリアなどお菓子の研修旅行にも行きました。

その後、千葉市立高等支援学校開校の手伝いの話があり、70歳を過ぎて店との両方は無理だと判断し、33年営んできたクルトの店を2014年3月に閉じました。現在は、地元中学校の家庭科の先生方に夏休み研修を3年間指導させていただいたことが縁で、生徒の就労支援が目的の千葉市立高等特別支援学校の食品加工班でお手伝いをしています。元気な高校生と若い先生方の中で生徒たちの未来を思いながら、81歳を過ぎてもお役に立てている幸せをかみしめて過ごす毎日です。

食を通して歩んだ60年、いろいろな方とのご縁に心から感謝しております。 【End】